

# P-MODEL SIDE Open Source

## CONTENTS

002 音楽産業廃棄物

010 JACKET MUSEUM

019 時間等曲率漏斗館へようこそ

029 まえがき

032 音楽産業廃棄物回収ステーション  
P-MODEL PLANT

033 イン・ア・モデル・ルーム

034 ランドセル

035 ポプリ

036 パースペクティヴ

037 アナザー・ゲーム

038 カルカドル

039 ワン・パターン

040 P-MODEL

041 big body

042 舟

043 電子悲劇/ENOLA

044 音楽産業廃棄物~P-MODEL OR DIE

045 シングル/オムニバス

046 ANOTHER ALBUM

049 VIDEO

050 RARE ITEM

052 Another Act

055 未収録曲リスト

056 P-MODEL BOOK

057 群体プシコイド変遷記

058 メンバー・ツリー

060 平沢進

063 田中靖美

066 田井中貞利

068 秋山勝彦

070 菊池達也

072 三浦俊一

074 横川理彦

076 荒木康弘

078 中野テルヲ+高橋芳一

082 ことぶき光

084 藤井ヤスチカ

086 小西健司

088 上領亘

090 福間創

092 TAINACO

093 LIVEの方法 1979-1999

110 平沢裕一 interview

111 SOUNDCAPES by 福間創

112 平沢スタジオ

113 小西スタジオ

114 福間スタジオ

115 RECの方法

116 サウンド解説

120 鎮西正憲 interview

122 有島“神尾”明朗 interview

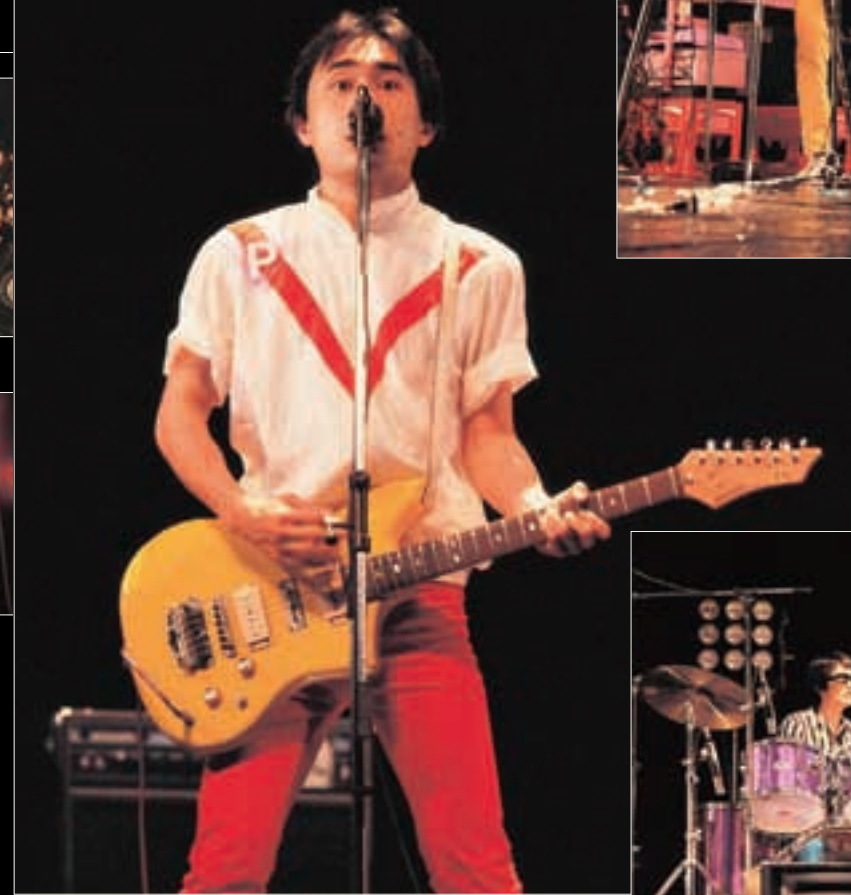
124 不許可用語集

127 ゴー・ゴー・アミー語 by ハスヲ

128 P-MODEL&平沢進 年表

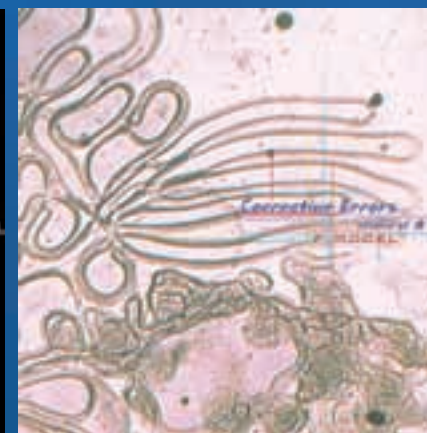
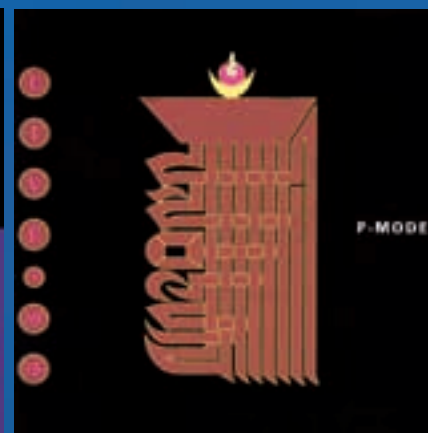
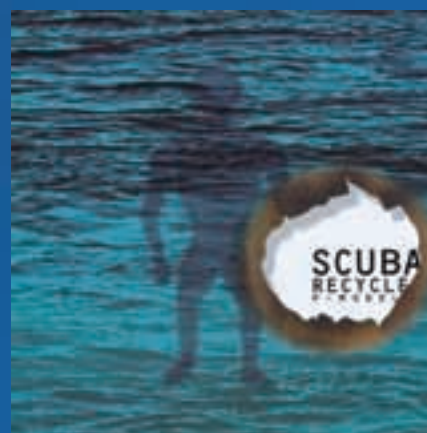
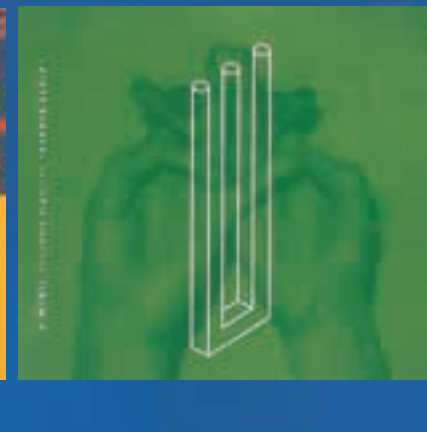
時間等曲率漏斗館へようこそ

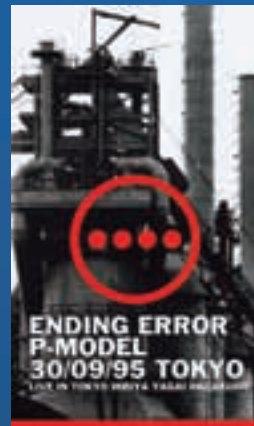
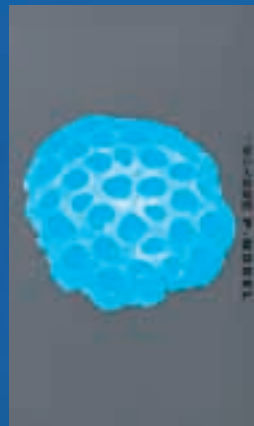
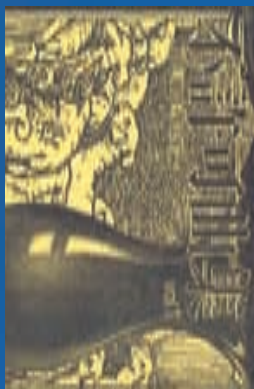
1979-1980



pix by Namai Hideki





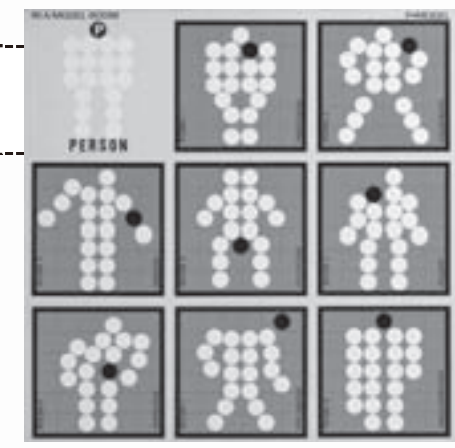




# 音楽産業廃棄物回収ステーション P-MODEL PLANT

アルバム、シングル、企画盤、別ユニットと、P-MODEL関連の判明している限りの全作品を紹介。オリジナル・アルバムに関しては平沢進自身が作品背景を語る。なお、P-MODEL脱退後の各メンバーの作品についてはこのスペースでは紹介しきれないので、メンバー・インタビューのプロフィールを参照されたい。

●曲名のあとは(作詞者+共作者/作曲者+共作者)の順で記載。作詞・作曲者が同じ場合はまとめて記載。曲順は初出時に沿った。同一作品でも発売時期によってメンバーや品番が違うものも多いが、アナログは発売時のメーカー、CDは現在のメーカーと品番を記載した。



## イン・ア・モデル・ルーム

### IN A MODEL ROOM

79年8月25日発売  
ワーナーバイオニア  
92年1月25日CD化  
ワーナーミュージック・ジャパン  
2003年10月20日再発  
SS RECORDINGS  
SS-101

#### SIDE-A

- ① 美術館で会った人だろ (平沢進)
- ② ヘルス・エンジェル (田中靖美)
- ③ ルームランナー (田中靖美)
- ④ ソフィスティケートッド (平沢進)
- ⑤ 子供たちどうも (平沢進／平沢進)

#### SIDE-B

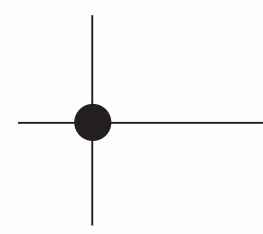
- ① KAMEARI POP (平沢進)
- ② サンシャイン・シティー (平沢進／田中靖美)
- ③ 偉大なる頭脳 (平沢進)
- ④ ホワイト・シガレット (平沢進)
- ⑤ MOMO色トリック (平沢進)
- ⑥ アート・ブラインド (平沢進)

今『ヴァーチュアル・ライヴ-1』を作っていて「そうだった!」って思い出したんですが、1stのコンセプトの下敷きにはオーウェルのSF『1984年』があったんです。あのシチュエーションを池袋に当てはめたわけです。P-MODELのコンセプトが固まっていく時、ちょうど日本で1番高いビルだという触れ込みでサンシャインシティが建設工事中だったんですね。わたしたちは夜な夜な工事中のサンシャインに忍び込んで遊んでました。工事中にもかかわらず電気が全部ついていて、守衛もなんにもいないんです。P-MODELが最初に自主的に作ったアーティスト写真はそこで撮ったもので、ライヴのチラシに使いました。

わたしたちは70年代から活動してるミュージシャンですから、物心がつく時に“新宿クリーン作戦”——新宿からサブカルチャーを締め出して、健全な街にしようとした挙げ句、単なる酔っ払いの町になってしまった——があったんです。今でもそうでしょうけど、サブカルチャーは気持ち悪い、あれは悪い人達だという印象がありましたし。

都市の過渡期ですね。そして、新宿に続いては池袋の整備だ。しかし、あの洗練されてない街に超高層のテナント・ビルが建つとなれば、これで東京は終わりだと思った。そうしたそこはかかない『1984』的絶望感を1stに込めたんです。

P-MODELは、田井中を除けば全員東京原住民で、東京が憧れの的ではないことぐらいバレている。どこへ行っても東京原住民のためのエリアはなく、周りから消費しにくる人のためのエリアになってしまった、価値観を共有できる人なんて電車のなかにひとりもないという意識がありました。いろんなものがあってみんな楽しそうにしているけど、なにが面白いの? 東京なんて全然カッコよくないじゃないか。こういうサウンドだからといって、東京の中心の文化の最先端と位置付けるのはよそう。まして、原宿・青山みたいところをバンド・イメージにするのはカッコ悪い。わたしが亀有に住んでいたこともあって、これは常磐線ポップだと言ってしまおう。そんなところから「KAMEARI POP」というタイトルが出てきたんです。



▶ あんたと仲よくしたいから美術館に火をつけるよ——とんでもなく面倒な手続きの上に成り立つ日常を一刀両断する言葉とともに、P-MODELは眼前に現れた。しかし、その衝撃は、今となっては説明するのが難しい。1979年という時代の空気との関係が密接だからである。

▶ わざとオモチャばくしたちゃちいシンセとリズム・ボックスの音。ものものしい機材を原色で塗りたくる。黒いはずのレコードをピンクでリリースする。などなど、ことごとくロックという権威を小バカにしてしまうポップ感覚。それがTVゲームに代表される時代の気分

に“新しいもの”として受け入れられた。

▶ と言ったところで通じないだろう。しかし、従来の日本語の音楽のセンスからは全く考えられない文体は、掛け値なしに新時代の到来を告げていた。都市、マスコミなど具体的な事象を扱いつつも、核にあったのは、現在まで一貫した“全人格的なコミュニケーションの方法論”だ。早くも無意識へ食い込んでいる。

▶ テクノ・ポップと言うよりは“テクノ・バンク”と表現したくなるハードなサウンド。シン

セヤリズム・ボックスの裏ではギターが鳴り続ける。P-MODEL自身も、もっとポップな仕上がりを想定しており、できあがった時には「こんなはずじゃなかった」と思ったそうである。

▶ プロデュースは佐久間正英。P-MODELはテクノ・ポップの原点であるばかりか、日本に初めて登場したロック・バンドである。それまで日本にロックなんてないも同然だったのだ。

▶ にしても、ピンク盤が初回限定400枚というのはホントだろうか。もっと出回ってたような気がする。うちにはピンク2枚、黒1枚あるぞ。

**マンダレイク #1** 1973~1974?



**マンダレイク #2** 1974~1976?



**マンダレイク #3** 1976~1978?



**P-MODEL #1** 1979.1~1980.11



**P-MODEL #2** 1980.11~1983.3



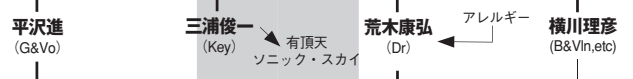
**P-MODEL #3** 1983.3~1984.8



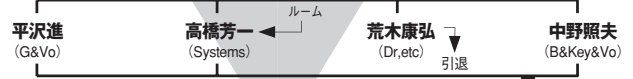
**P-MODEL #4** 1984.8~1984.12



**P-MODEL #5** 1985.1~1985.12



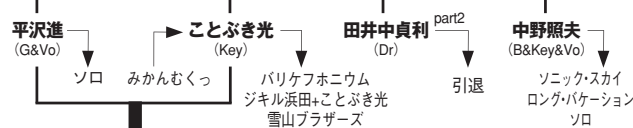
**P-MODEL #6** 1986.1~1987.3



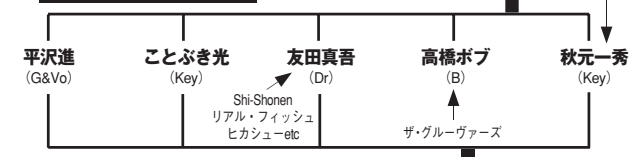
**P-MODEL #7** 1987.3~1987.10



**P-MODEL #8** 1987.10~1988.12



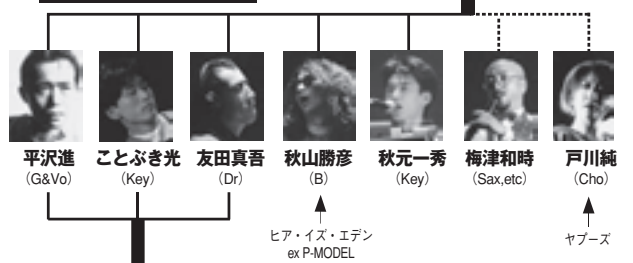
**平沢進バンド #1** 1989.9~1989.11



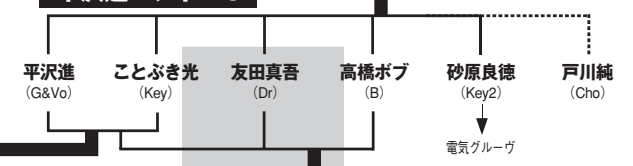
**LIVE PHOTON 1990.5**



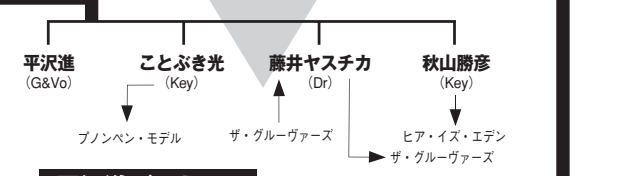
**平沢進バンド #2** 1990.7~1990.12



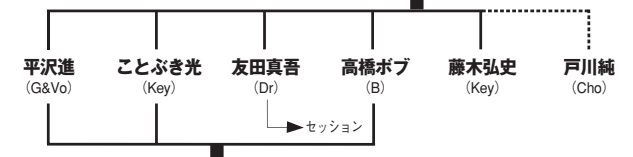
**平沢進バンド #3** 1991.6



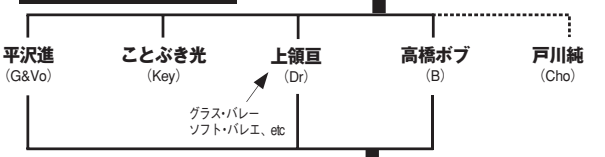
**P-MODEL #9** 1991.9~1993.10



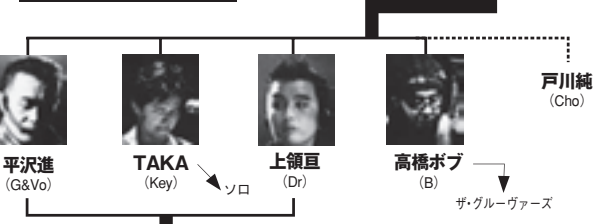
**平沢進バンド #4** 1991.12



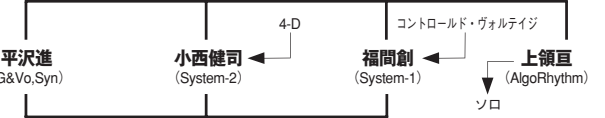
**平沢進バンド #5** 1992.12



**平沢進バンド #6** 1993.12~1994.12



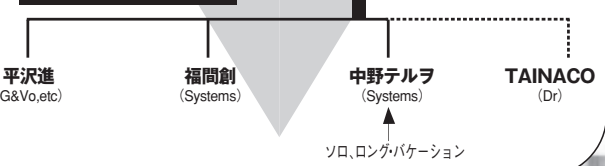
**P-MODEL #10** 1994.12~1997.4



**P-MODEL #11** 1997.5~2000.12



**平沢進バンド #7** 1999.4



## 平沢進

## 人間は頭がよくなる生き物なんです



PIX BY RAIMI HIDEKI

### 音楽界のあまりのひどさに P-MODELは5年もたないと思った

P-MODEL唯一のオリジナル・メンバー、平沢進。彼にP-MODELの20年がもたらしたものはなんだったのか。

**Q** P-MODELが20年も続くなんで、平沢さん自身、デビュー当時には考えられなかったと思うんですが。

「5年くらいやめてると思っていました。5年もやれば、こんなところは耐えられないだろうとね」

**Q** デビューして知ったメジャー・シーンの体質に我慢できなかったということですか。

「そうですね。ところが20年も続いてしまいました。これも、ひとえにお客さまの熱いご支援、ご鞭撻の賜物です(笑)。おかげで、わたしは20年間も牢獄に閉じ込められてしまったわけです」

**Q** ソロに専念しようかと思えば、いつになったらP-MODEL始めるんだと言う人間もおり。

「ソロになりゃ、こんな平沢に誰がしたんだと言う。みんな言いたい放題ですな」

**Q** ヴァーチャル・ライブ・シリーズのために、初期の音源を聴くという作業をされたと思いますけれども。改めて発見とかってございましたか。

「いや、よくできてるなと思いましたよ。全体的に、アレンジとか。それと、やっぱり800DV(コルグ)じゃないと、なかなか当時出していた音を出せないです。P-MODELサウンドにならないんです。つやつやの可愛い減衰音だと、どうしてもおしゃれに、どっちかというトラスチックス・サウズになっちゃうんですよ。ノイズがないとP-MODELの音に聴こえないんですね」

**Q** でも、こういう機会でもないと、過去の音源を聴きなおすことなんてないんでしょうね。

「しません。仕事じゃなければ、聴きたくないです。作曲か

らミックス・ダウン、マスタリングに到るまで、なん100回聴いてるかわからない。ライブもやるし、リハーサルもやる。そういうものを、また引っ張り出して聴くのはおかしいです。持っていないアルバム、たくさんあります。かろうじてソロになってから、完リけて1・2回は聴きますけどね。だいたい悔いが残るといふか。やっぱりミュージシャンって、みんなそうだと思うんですけど、あとからアレンジを変更したかったり、いろいろあるわけです。ある時点での断片を公表するわけですから。やっぱり、改めて聴くと、こうしなかったなみたいな気持ちか蘇ってくるわけです」

**Q** MP3で配信するなんてことになると、平沢さんのことだから、ひと月に1回ぐらいヴァージョン・アップしちゃうんじゃないかっていう気がしますか。

「それはやりたいですね。ただ、今はとにかく年内にアルバム4作分の楽曲を作らなきゃならないので、物理的に無理ですけどね。そんなことは、やろうと思えばいくらでもできますね。またそれがたとえばミュージシャンの欲求としては満足できるんだけど、リスナーがいちいちお金払ってどこまで聴きたいかっていう問題もありますよね。無料ヴァージョン・アップでもいいですけどね…それ、考えてみます(笑)」

### ヴァン・ヘイレンって楽屋で P-MODELのコピーしていたんです

**Q** せっかくですから“ヴァーチャル・ライブ”のこのエピソードなんかうかがいたいんですが。当時、ほかのテクノ・ポップと呼ばれるバンドについては、どう思われてましたか。

「わたしはプラスチックもヒカシューも好きだったし、レ

コードも買いましたよ。それまでも、日本にもロック・バンドが、たとえばカルメン・マキとか、フラワー・トラベリン・バンドとか、ぼつんぼつんとはあったけれども、ひとつのシーンができることはなかった。なにがしかのシーンができたのは、東京ロッカース、テクノ御三家からですよ」

**Q** YMOは？

「あれはフュージョンだと思ってましたから」

**Q** 東京ロッカースは、共演されたことも多いわけですが、どんな印象をもたれましたか。

「フリクションはカッコよかったですね。レックを見て初めて“こういう人、カッコいい”って思ったんです。初めて憧れられる男性像を得た気がしました。それまでは、ほとんど男にはイヤな印象しかなくて。常に大人の男にはなりたくないと思っていたのが、レックならいや、ああいうふうになれるかなと思ったりしましたね。すごくヘンな言い方ですけど、ちゃんとカッコいい男になってるって、あんまりいないじゃないですか。同年代のサラリーマンなんか見たら、近寄りたくはないですよ(笑)。情けないか憐れそうかどっちかで、レックみたいにカッコいいってそんないないですから」

**Q** ヴァン・ヘイレンやXTCとも共演されていますか。

「とにかく打倒ピンク・レディーで行こうと思っていましたからね。ライブもニュー・ウェイヴと一緒にやるより、ニュー・ミュージックと一緒にやっていたら、レコード店では、ニュー・ミュージックの場所に置いてくれたら、我々は言っていたんです。そうしたら“ヴァン・ヘイレンが来るんだけど、一緒にやる？”と言われて、こっちとしては是非って感じてました。デビュー後いきなり武道館ですよ。あれでファンになった人ってけっこういる

です。もちろん早く引っ込めと思ってた人もいました。してやったりですね。あの時はヴァン・ヘイレンの機材車の隙間を貸してもらって、自分たちで機材の積み降ろしをしながらツアーしてたんです。面白かったのは、すごくフレンドリーなんです、ヴォーカル(デイヴ・リー・ロス)以外は。あれはメンバーにも嫌われてたかもしれない(笑)。ギター(エドワード・ヴァン・ヘイレン)とベース(マイケル・アンソニー)が仲いいらしくて、よく一緒にいて。どうもあのふたりがすごくP-MODELを気に入っていたみたいです。リハーサルの時、ステージの横にきて、PAになにか言ってくれたり。そのうち楽屋でP-MODELのコピーを始める。ヴァン・ヘイレンの楽屋は個人別になっていて、ステレオ装置やギターとベースのアンプがあるんですが、ギターとベースのふたりで『ホワイト・シガレット』とか演ってるわけです。日に日にレポートが増え行きます。しまいにはP-MODELのステージの間、ベースが横で見えてくれて“今日はOKだ！”みたいなことを言ってくれたりとか。非常に楽しかったですね」

**Q** XTCは？

「XTCのサポートも別の意味で面白かったです。ヴァン・ヘイレンと違って地味なんです。ヴァン・ヘイレンの場合は、PAやライティングのスタッフまでみんな両脇に女の口抱えて飲みに行ったりするんだけど。XTCはタクシーからひとりずつ自分で楽器を持って出てくる。XTCはあまりに質素ですごくいいなあと思った。アンディ・パートリッジは自分からP-MODELの楽屋に来て“オレたちXTCだからよろしくね。キミたちの曲聴いたよ”って。こっちは“あ、しまった。P-MODELから行かなきゃいけないんじゃない”って。楽屋にP-MODELのアルバム持っていいたら、あとからXTCのレコード送ってくれてね。こっちは英語を喋れないので、それ以上の交流はなかったんですが、P-MODELは全員XTC

を尊敬しているし。リハーサルのサウンド・チェックなんて、ジャム・セッションですからね。めっちゃ上手い。ライブはP-MODELのほうが盛り上がりがあったけど、こっちはXTCのほうがぜんぜんすごいと思ってたんです」

**Q** P-MODELって、よくXTCと比較されましたね。

「よく“XTCにそっくり”と言われたことがあって、メンバー内では“XTCに失礼だよな。向こうはもっとヴァリエーションがあるぞ”って言ってました。あれは偶然なんです。アンディ・パートリッジの下からしゃくりあげてすぐにミュートするギターのカッティングと、ラリー・アンドリュースのYC-10に近いオルガンの音。その組み合わせが似て聴こえるんですね。そういう意味で、P-MODELに成り立ちが1番近いのはレッド・ノイズ。レッド・ノイズって、イギリスのピー・パップ・デラックスのギターの人(ビル・ネルソン)がやっていたバンドで、高橋幸宏のツアーで白いギター弾いてた…いつかは朝食のような生活していたという。P-MODELって海外でレッド・ノイズと比較されたりしたんですよ」

### この20年でいつでもどこでも作曲できるようになりました

**Q** P-MODELの20年が平沢さんに与えた影響という、まずなんでしょう。

「わたしは自分の能率がどんなものかということ、よく知ることができました。その能率は拡張することができるということも、なにができないのかもわかりました。つまり結成当時と今では、ものを作るペースが10倍以上違うと思うんです。結成当時、どうやっても不可能だったものが、今はできる」

**Q** 以前は「音楽が降りてくるのを待ってなくて、作曲はできなかった」と言っていましたが、今は、強引に引きずりおろすことができるようになった？

「強引に引きずりおろせませすよ」

**Q** それは術を学んだということですか。

「ということであると同時に、それをなん回経験すると確信を持つんですよ、自分はそれができる。そうするといつでもできるようになるんです」

**Q** 梯子を架ける民にたとえますと、音はどこにあるかわからない場所に梯子を架けて、ここは開くか、あそこは開くかと試行錯誤してたのが、今は開けてみなくとも「あそこが開くな」とわかるようになったような感じ？

「たとえば非常に抽象的になってしまうけれども“あそこが開くな”じゃなくて“ここに開けられる”という感じなんです」

**Q** 探さなくても、開けたい場所を開けてどこからでも取り出せる。

「ここに開けられる—わけです。今ここで、作曲しましょうか？ できるわけです」

**Q** 音はものすごく歌詞に悩んだけれども、ソロになってしばらくしてから、非常に簡単に書けるようになったとおっしゃっていらしたけれども。

「そうですね。それも、今のとたぶん同じ意味だと思えます。P-MODELよりソロのほうが規制が緩いという意味でも書きやすくなりました。術を学んだというよりは、ここ何年かの間にわかったんですけど、人って頭がよくなるんですよ。頭のよくなり方にもパターンというのがあって、わたしの言うのは、望んだことを実現する方法論をたやすく見つけられるっていうことですね。これはアミーガの影響なんです。アミーガを使うことによってわかったことです。つまり、アミーガというのは誰も助けてくれないんです。まず、わたしは、コンピュータを初めて手にして、マウスがなんだかわからない、OSがなんだかわからない状態から始めた。やがて、まったくにもわからない状態から、わかることが点在して

# 不許可用語集

**P-MODELの曲にはわからん言葉がいっぱいあって困る!**
**とお嘆きの貴兄への嬉しい企画です。**
ここでは**P-MODEL**や**平沢ソロ**の**歌詞**、**ブックレット**、**ジャケット**に登場する**難解な言葉**、**平易であっても特別な意味を持っている言葉**、**謎の人物を中心にピックアップ**。あいうえお順に**並べ**、**簡単な解説を加えました**。スペースの都合もあるので、**ご家庭の国語辞典・英和辞典で調べられるものは省きました**。また、これだけの解説じゃわけわからんのもありますが、そこは**それP-マニアなら自分で調べる努力も必要です**。もちろん、**ナゾはナゾのまま、好き勝手にイメージを膨らませて聴くのも正しい姿勢ではあります**。また、**断り書きがない限り、解説中での「 」内の発言は過去の平沢進の発言からの引用ですが、ほんとに平沢本人はこの企画にノー・タッチです**。なお、**初出は広瀬充責任編集『ビコエンタテインメント2号』(93年)に掲載された拙文で、大幅に加筆訂正しましたが、どの曲に出てくる言葉が省略しました**。

<b>&lt;あ&gt;</b>
Archetype Engine／女性の元型のエンジン。ディスコグラフィ参照。 <div>愛/P-MODELの詞で“愛”“ラブ”“恋”が肯定的に使われることはまずない。「ラブ」ストーリー」がカッコ付きの「ラブ」であるのは象徴的で、たいていはシニカルに、引用句的に使われる。ただし「列車」での“愛して”は本気っぽい。「あれはマジです。珍しいですね。ただ、勢いというか、言葉をはめていく過程で出てきたんですけど」アカシック・レコード/太古から未来まで人類のすべての歴史が記されているという神の記録盤。<div>Astro Notes／宇宙飛行士。ふつうastronotesと1語。ベンチヤーズみたいなエレキ・バンドにアストロノーツがあった。ATOM-SIBERIA／シベリアという原子。ウラジオストックなどの軍港には原爆がウヨウヨいるが…。<div>「いや“ATOM-SIBERIA”って言葉じゃないんです。「アトム“SIBERIA”」っていう感じなんです。わかります？」another／平沢は“アナザーの発想”が好き。迂回路、パイパスも同様に好き。<div>「なにか達成しようとして失敗した時、また同じ路線で変数だけを変えて行ったのは永遠に失敗する。だったらいったことと別路線で行こうということです。野球を疑うんだったら、相撲をやれっていうことですね(笑)」<div>アニマ/ユング心理学で言うところの男性の無意識にある女性的要素のイメージ化。夢に出てくる知らない女性はたいていアニマ。<div>アホのリノ/ユージさん/79年当時、ニュー・ウェイヴを極めて表層的に扱っていた“水曜イレブン”(11PM・水曜日)のMC。かたせ梨久と今野雄二。<div>アポロ/ギリシャ・ローマ神話で、太陽・詩・音楽・予言・医療の神。初めて月へ行った有人宇宙船はアメリカのアポロ11号。AMIGO/スペイン語で“友達”の意味の男性名詞。AMIGAはその女性名詞。<div>アモール・バッファァー/愛の蓄積装置。amorはスペイン語で愛。bufferは緩衝材、コンピュータ用語では一時的にデータなどを蓄積しておくこと。<div>嵐の海/静かの海/ともに月面の地名。静かの海にアポロ11号は着陸した。<div>アルゴリズム/algorithmはアラビア式記数法(0.1.2.3…)のこと。algorithmは中世イスラムの数学者アル・ファズリの名に由来する計算の手続き形式。コンピュータでいえば、プログラム。AlgoRhythmは上級豆。<div>イオ/木星の第1衛星。ちなみにマーズは火星、マーキュリーは水星、テラは地球、ルナは月。</div></div></div></div></div></div></div></div></div></div></div>
<b>&lt;い&gt;</b>
石の輪／曼荼羅を指す。イヨマンテ/アイヌの熊送りの儀式。これを残虐だなどという動物愛護団体は反エロコジイである。正しい書物で正しい知識を得ましよう。1778-1985／1778年にメスメルはウィーンからパリへ移り熱烈歓迎された。→Mesmer異邦人／不条理作家・カミュの同名の短篇小説があるが関係なし。マンドレイク時代は「異邦人目覚めよ」と歌われた。IN A MODEL ROOM／ジャケットを見た通りです。たとえばヨシコちゃんならヨシコちゃんが社会生活を営もうとした時にはなにがしかの、お医者さんのヨシコちゃんだとか、学生さ

んのヨシコちゃんみたいになるってしていくっていうこと)

<b>&lt;う&gt;</b>
迂回路→another

<b>&lt;え&gt;</b>
FGG／「全くの気分です」 <div>ENOLA／広島島の爆撃機はエノラ・ゲイ。OMDのヒット曲に「エノラ・ゲイの悲劇」がある。80年の2ndアルバムも日本では同じタイトル。<div>エントロピー/物質または場からなる系の状態量のひとつ。もともと理工から出た概念だが、社会学でも転用されて流行った。ネゲントロピーは負のエントロピー。<div>エルモ/セント・エルモス・ファイアー。暴風雨の日に出て船を先導する。放電現象か。語源はエルモという神話的人物がいたとか、ヘレネからきてるとかなど諸説ある。<div>Nsetn-Oiraelvook／単に「ジャケット・デザイン上のバランス」に入れたらいいが、意味は自分で考えよう。<div>遠藤ミチロウ／「ミチロウさんは、すっごく人柄が好きなんです。魅かれるところがありますね」エンブリオ/embryo。胚(卵)胎児、萌芽。ピンク・フロイドの曲名とは関係ない。</div></div></div></div></div>

<b>&lt;お&gt;</b>
Old Man's Voice／「当時、頻繁に起きた元日本兵シンクロシティのうちのひとりです。「三界の人体地図」のために、原稿を読んでもらう老人を探しに老人ホームへ行き、そこで知り合った。ひとりでは歩行もできず、戦争のトラウマで言葉もろくに出来て来ない状態でした。老人ホームの人は「この人はだめ、ちゃんとしやべれないから」と言ったのですが、わたしはこの人がいいと言いはったんです。しかし、テープレコーダーに刺激されて、とたんに鏡面になりました。テープは40分ほどあります。間もなく亡くなりました」 <div>長の輪/ユング心理学で“老賢者”のこと。オゾノ・コブラノスキー/ピラ「プリュムゲール」以降、多出。一時期はアミーガをこう呼んでいた。「わたしの老賢者に当たる架空の人物ですが、モデルはいるんです。言問橋の下の公園にインテリ食ばっかいいるエリアがあって、本棚に難しい本が（←って並んでるの。ひとりのおじいさんが、七輪かなにかの明かりで本を読んでたんです。それが霧がかかって、オゾンが発光してるとみたいに見えたんですね。ちょっと話をして、そういうキャラクター設定をその人から得て、家に帰った。で、オゾノ・コブラノスキー。アミーガは、グルのメデイテーションのなかに住んでる女のこっという設定なんです。そこから、自分のグルがオゾノ・コブラノスキーだから、オゾノテック・コンピュータ」<div>オド(の火)／フォンライヘンバハ男爵が唱えた磁気流体エネルギー。ライヘンバッハのオドの力は今で言うところのフリー・エネルギー。<div>オルゴン・ボックス/心理学者ウィリアム・ライヒが考えた性的エネルギーに基づく奇妙な治療装置。</div></div></div>

<b>&lt;か&gt;</b>
カーリー/ヒンズー教のシバ神の妃。ドゥルガー、パール(ティイーとも言う。もとは独立の神格であったが、シバと結婚してその特性を失った。ヒンズー教のシャクチャ派ではカーリーを特に崇拝する。

カオス/混沌。カオス理論においては、非線形差分に固有の現象として扱われる…らしい。よくわからんが、数理生物学の発見で、要するに予測不能のことが。平沢はCGで見たフラクタルが生み出すカオスに大きな影響を受けな。 <div>拡張スロット/AmigalにはZorro slot/Video Slot/CPU Fast Slotなどがある。<div>Kapsel。独語でカプセルのこと。<div>カムイ・ミンタラ/アイヌ語で「神々が遊ぶ庭」の意味。カルカドル/カルクアドル(いろんな意味で、なにをやっているのかはっきりわからない。調子よくなかった時期なんですね。ちょうどカウンセリングを受けていて「それならカウンセリングを受けている間に出てきた無意識の内容を全部作品にしてみろ」と言われてまして。その時つけてたノートにカルカドルっていう鳥が出てくる元型的イメージみたいな絵が描いてあったんです。で、カルカドルを受け止めたのがダンス奏夫なんです」<div>カンプリア/5億9000万年前に始まる地質年代。</div></div></div></div>
---

<b>&lt;き&gt;</b>
擬態/ナナフシみたいに、昆虫などが環境にある物体とよく似た色や形をしていること。「このころ、ナナフシもったりしてね。擬態は好きなんだ。ナナフシはナナフシたる遺伝子によってナナフシになるのに、なんで違う経緯にある葉っぱの形をできるかっていうのが面白くて。フこゼミとかね。ワニとゼミっていうまったく違う出所なのに、DNAなりなんりのなにかお互いの情報が包括的にあるという設定が好きということです」 <div>キじし/鬼神/天才のこと。<div>キミ/ボク/平沢進がもっとも高い頻度で使う、あまり人間臭くならない現代名詞の表記方法。P-MODELの1st・2ndでは“あんた”なども使われてたが、その後は姿を消す。ちなみに田中靖美は“アンタ”や“キミ”を使用。「やっぱり“あんた”って、ロックン・ロールっぽい感じがして、ノリはいいんだけど、ちょっと違うかなと。人称代名詞はなるべく使いたくないんです。たとえば、あんた、キミ、あなっという言葉で、歌ってるひとの性格がある程度決まるとしょ」<div>共時性/シンクロシティのこと。因果律ランダム連鎖である。錦城翼・遠藤ミチロウの作品にも参加しており、ソロ・アルバムもリリースしている。</div></div></div>

<b>&lt;&lt;&gt;&gt;</b>
クラスター/群体。群れがひとつの総体を作る。磁気ディスクの論理的な単位や、フラクタル理論で転移移によって起こる現象も指す。テクノの先駆的グループの名でもある。グレートブラボーボックス/ウィルヘルム・ライヒのオルゴン・ボックス(アキユムレイター)、クリストファー・ヒルズのパイレイ・コファァーのイメージらしい。ライヒはフロイトの弟子にあたる精神分析医で、獄死した。オルゴン(生命エネルギー)が思想の中核となっている。オルゴン・エネルギーを使って、オルゴン・モーター、氣象制御装置クラウド・バスターを発明し、ケイト・ブッシュに歌われた。クロノ/時間。global village/マクルーランを読もう。

<b>&lt;く&gt;</b>
ghost/独語で形態。心理学の分野としてグジュタルト心理学がある。「ホモ・グジュタルトからきてるんです。だって「人間以上」は

漢字習う前から読んでましたから」 <div>結晶/平沢いわく“テクノ”のキーワード。<div>原史/原始の誤植。</div></div>
--

<b>&lt;こ&gt;</b>
コイル/テスラの発明したテスラ・コイルは、普通のコイルのように鉄心を使わず、2次側のコイルの上に1次コイルを数回巻く構造になっており、高圧高周波が得られる。テスラの伝記本に出てくる火花を散らすアレである。 <div>コペンハーゲン解釈/現代の正統的な量子力学のおおもとを作ったコペンハーゲン学派の考え方。<div>コロニー/集落、植民地、隔離地、リハビリ施設、シャーレなどで培養した菌などの群体。<div>「バンコクのナース・カフェ、フーケットのタンモウ(スイカ)というオカマが集う店があるんです。元来はオカマが仕事を終えて集まってリラックスする店なんてなかなかないんですけど、タイには珍しく静かな店だね。タンモウはいわゆるコヒーシヨップみたいなものなんですけれども。その辺一帯はオカマにすこく理解があって、わたしはコロニーと名づけたわけですよ」</div></div></div>

<b>&lt;さ&gt;</b>
サイborg/ cyborgはcybernetic organismの略。「こういう曲に「サイborg」ってつけたらびっくりするだろうなと。それだけ。けっこういいかげんでしょ」 <div>siren/サイレンまたはセイレーン。セイレーンはギリシア神話でシリーエ近辺に住み、美声で近くを通る船人を誘い寄せて難破させたという半女半鳥の海の精。感性的な美人や歌手にたとえられる。<div>サマーディ/ビンディー語で悟りの状態。空間そのものの意識を取り戻すこと(山手園)。<div>サウキ・カズミ/火の轟のヴォーカル。占い師。サワカサヤ。サンシャイン・シティ/地袋にあるのはサンシャインシティである。</div></div></div>

サンシャイン・シティ/ ガールズ/「どうもどうも」ってところは子供の声とかいろんなものが混じっていてほしい、少なくとも女の音が入ってるのがよいだろう、と。録音中断してメンバーでマクドナルドに行ったんです。みんなよけるよける(笑)。しょうがないからディレクターが名刺を出しても、怪しむ怪しむ。そこにいた制服の女子高生たち3〜4人にコーラスをやっしてほしいって言ったら、ちょうど音楽学校の付属高校の生徒だったんです。つまり使えるものは誰でも使っちゃってP-MODELの姿勢です(笑)」 <div>サンバパーティ/子供たちが出てきて「サンバパーティ」って気合を入れる怪獣モ/のドラマ仕立てのレコードが音あった。中野は作曲(デモ)の段階ではそのレコードからサンプリングして曲のパーツにしていたが、レコーディングでは合奏団が歌った。</div>
---

<b>&lt;し&gt;</b>
シヴロン/山形の紋章。平沢進の愛車シロエンのエンブレムでもある。「シヴロンはブレーキを踏むとお尻がクツと上がる。チャチなところがいいい」 <div>シトロエDS21/インタラクティブ・ライヴ「シム・シティ」で「Caravan」のバックには、シトロエン・ジャパンから借りてきたシトロエDS21の映像が使われた。時間等曲率漏斗/クロノ・シンクラスティック・インファンティラム(時間等曲率漏斗)を見せるフランドリウム。カート・ヴォネガット・JrのSF『タイタンの少女』より。Shining／「迷路」とともにキューブリックの映画『シャイニング』を想起させるが…。</div>

<b>&lt;た&gt;</b>
対局/「対極」の誤植ではないかと思うがどうか。“対局”では碁や将棋の勝負になってしまう。「誤植かもしれないし、迷った挙げ句、そうしたのかもしれない」 <div>ダイジョブ/なぜか英語表記では“DAIJOB”になってるが…意味がわからなくてDA!<div>太陽の木/これも諸星大二郎とは関係ないが、神話的なイメージ。元が一緒。<div>トウファイト(Zait)/独語で時間。タンジェリン・ドリームに「Zeit」というアルバムがある。つて/伝。伝手。てづる。ひとつづて。「伝というのはたとえば“あの人と知り合いたいんだけど、なにかいい伝はないか”の伝です。人間はそういう伝を持っているのを離したんです。それで隠れ家ですて曼陀羅を描くんです。これも「BOAT」と発想は一緒ですな)」</div></div></div>

<b>&lt;す&gt;</b>
ストラ(utra)/梵語で仏教典。スカラールール/スカラーは数学で習うように、ベクトルの反対概念。座標系の変換に対して不変で、適当な単位をきめれば

ひとつの実数で完全に表すことのできる量。長さ、時間、質量、エネルギー、電荷など。アメリカのフリー・エネルギー研究者、トーマス・ペアンはスカラー波電磁場理論を打ち立て、ロシアのテスラ兵器に対抗しようとした。「スカラー理論のブールなんですよ(苦笑)」 <div>スキューバ・ボール/スキューバのブックレットにも載っているヘンなボール。叩くとペンな音がる。田井中がステージで使っていて、引退ライブのアンコールでは、田井中コールに応じて客に叩かせていた。<div>スケルトン・コースト公園/平沢がTVで見た、骸骨の門がある海岸に難破船を展示した公園。<div>スタック/コンピュータ用語辞典を引けばたいてい載ってる。STONE AGE/石器時代。トランジスタやシリコン・チップ、CPUを“石”と呼ぶことから、コンピュータ時代を“石の時代”と呼ぶ。<div>SPEED TUBE/量子の衝突実験のための全長数kmに及び巨大なチューブ。筑波に実在する。<div>スピンドル/回転軸。宇宙ステーションの中心。スプートニク/ロシアの人造衛星。平沢が好きだったベンチャーズみたいなエレキ・バンド。<div>世界タービン/ニコラ・テスラの考案した“世界システム”と“テスラ・タービン”がモチーフ。<div>寸善尺麗/世の中にはよいことが少なく、とかく悪いことが多い。まったくもってそう思う。</div></div></div></div></div></div></div>
---

<b>&lt;せ&gt;</b>
Save Load/コンピュータでsaveは保存、loadは読みこみ。Zebra/同名曲発表当時のシンボル。ほかにもココロテ、ドッグ、キャット、鹿、ヤギ、ウサギ、鷲、ワトリ、獅子、牛…など、平沢ソングには意外と動物が出てくる。「ゼブラ模様というのがあって、実際のゼブラは同じ模様をしてないっていうことじゃないかな」 <div>線形非線形(linear/nonlinear)/線形は、数学的には「一次式で表される」こと。物理的には、一次式で表される現象の形容詞。つまり、指数関数との関連で構造がはっきりしている状態。しかし、非線形では、爆発や分岐のような非連続的な現象の起こる可能性が生まれる。というわけで、カオス理論、フラクタル理論の重要なキー・ワード。リニア/ノンリニアはビデオ編集用語としても使われる。ソリトン解は非線形方程式と考えられる…って、わけわかりませぬ。</div>

<b>&lt;そ&gt;</b>
ソユーズ/ロシアのロケット。Solid air／「凝固した空気です。びしりつまった空間という。コンクリートの中で生活しているような感じですな」 <div>ソリトン(soliton)/孤立波(solitary wave)が語源。1箇所に集ると、形を変えずに伝わっていく波。衝突後もそれぞれの形を保ちながら離れていく。素粒子論でも重要。<div>ソレノイド/円筒状のコイル。</div></div>

<b>&lt;た&gt;</b>
対局/「対極」の誤植ではないかと思うがどうか。“対局”では碁や将棋の勝負になってしまう。「誤植かもしれないし、迷った挙げ句、そうしたのかもしれない」 <div>ダイジョブ/なぜか英語表記では“DAIJOB”になってるが…意味がわからなくてDA!<div>太陽の木/これも諸星大二郎とは関係ないが、神話的なイメージ。元が一緒。<div>トウファイト(Zait)/独語で時間。タンジェリン・ドリームに「Zeit」というアルバムがある。つて/伝。伝手。てづる。ひとつづて。「伝というのはたとえば“あの人と知り合いたいんだけど、なにかいい伝はないか”の伝です。人間はそういう伝を持っているのを離したんです。それで隠れ家ですて曼陀羅を描くんです。これも「BOAT」と発想は一緒ですな)」</div></div></div>

<b>&lt;ち&gt;</b>
CHARAN SANITWONG 24／「Miss Nの美家があるんですが、東京で言ったら北千住みたいな感じですよ」 <div>チューブラー・ヘルツ/正体はカシオFZ-1。</div>

<b>&lt;っ&gt;</b>
ツァイト(Zait)/独語で時間。タンジェリン・ドリームに「Zeit」というアルバムがある。つて/伝。伝手。てづる。ひとつづて。「伝というのはたとえば“あの人と知り合いたいんだけど、なにかいい伝はないか”の伝です。人間はそういう伝を持っているのを離したんです。それで隠れ家ですて曼陀羅を描くんです。これも「BOAT」と発想は一緒ですな)」

<b>&lt;て&gt;</b>
テスラカイト/ニコラ・テスラは交流電氣を実用化した技術者だが、マッド・サイエンティストの側面もある。こんなスペースじゃ説明できない。 <div>テクタイト/世界の限られた地域にしか産出されないガラス物質体。生成起源にナゾがあり、宇宙物質、月からの飛来物、地球の岩石の溶けたものなど諸説ある。<div>デューン/銀河帝国1万年の歴史を繰ったハーバートの大河SF「デューン」シリーズより。<div>デラワーカメラ/ジョージ・デラワーというマッド・サイエンティストの発明品。花の種子を撮ると映っている姿が映るとか、血液を撮ると被験者の全体像が映るとか…。医療器具としても利用可能らしい。<div>テロートマトン/ニコラ・テスラが発明した世界初の無線操縦潜水艦。元祖ラジコ。<div>TELE EXISTANCE/マジック・ハンドみたいなもので原発の危険作業を行ったりする。ヴァーチャル・リアリティ・システムの先駆。<div>てんびん/『ポプリ』のコンセプトが「てんびんから降りる」だった。つまり、批判者と被批判者がいてつりあいが取れている構造のこと。「いちぬけ」も同様。</div></div></div></div></div></div>

<b>&lt;と&gt;</b>
Totem/トーテム・ボールのトーテム。トーテムズムは、北米インディアンやアフリカ、南太平洋などの島々など世界各地に見られる。動物などに対する精霊信仰。 <div>Trick Star/文化人類学用語。自由奔放な行為ですべての価値をひっくりかえす神話的愚者。ユングには“トリック・スター元型”という分類がある。ココロテはナヴァホの神話でトリック・スターとして現れる。<div>トリビュー/製図でつこの視点から見た3面図のこと。</div></div>

<b>&lt;な&gt;</b>
ナージサス/ナルシス。水仙。 <div>ナヴァホ/ホビ族/ともにアメリカ・インディアンの部族名。ホビ族の母=大地、である。平沢はアポリジニが好き。ナノ・クラフト/「超微細工作です。要するに米や原子に絵を描くようなことですね」</div>

<b>&lt;に&gt;</b>
二重思考/ジョージ・オーウェル「一九八四年」(ハヤカワ文庫)を読むかデヴィッド・ボウイ「ダイヤモンドの犬」を聴くとわかる・かも。人間、逆の考えをするとラクになるもんだ。

<b>&lt;ね&gt;</b>
ネオテニー/幼形成熟。ウーパールーパーのように幼体のまま成体になること。個体もしくは種の成長形態として“大人”にならずにぬ“子供”のまま成熟すること。模因が守おのマンガ「14歳」や山手園弘の「創業夢塾」“惑星ネオテニー”参照。

<b>&lt;の&gt;</b>
のこぎり鳥/「これは完璧な架空の動物で、こんなものは世のなかにいません。嘴がのこぎりになってるんです」

<b>&lt;は&gt;</b>
BINARY GHOST/2進法の幽霊。ちなみにユング心理学でGeist(ガイスト)が精神、Seele(ゼーレ)がこころ、Psyche(プシケー)が心、と区別して使っている。 <div>ハス/「ハスは好きですよ。感覚的に電車とかより公共性が高い感じがするんです。わたしの頭のなかにあるハスは、だいたい夜行くんですね。それもやはり公共性が高い乗り物で、いろんな職業のひとが無理なく乗り合わせられる。そのひとたちには、昼は電車の生活を送って、夜はバスに乗って行く部分があるんです」<div>Perspective/遠近法。ジャケットは絵本「星の王子様」とフリップ&amp;イーノのアルバム「イヴニング・スター」より。<div>PERSONAL PULSE/当時あったP-MODELの半オフィシャル・ファン・クラブの名前。最初は「ラジオ」という曲名だった。<div>HARM HARMONIZER/HARM(損傷)とHARMONIZER(調和させるもの/音階を変えるエフェクター)の語呂合わせ。<div>ハーモニウム/リード・オルガンの一種で、空気を押し出してリードを鳴らす。カート・ヴォネガット・Jrの小説「タイタンの少女」には「水星でこれまでに発見された、ただひとつの生物」として登場。「なんでハーモニウムがオルガンを意味するんだろって思っ</div></div></div></div></div>





**2月25日** オムニバス・アルバム『アンファンII』がリリース。平沢はアトランティックスのカバー「トゥーリスト」を提供。

**3月1日** マネージメント・オフィスをモデル・ハウスから“オクターブ”に改称。

**4月4日** ポリドール（現・ユニバーサルミュージック）との契約が決まり、新譜のレコーディング開始。

**6月25日** 徳間ジャパンから[Perspective][ANOTHER GAME]がCDとして再発。

**7月4日** 第1回“時空の水”ツアーがスタート。博多、広島、大阪、名古屋、東京を回る。バンド・メンバーは、平沢進（Vo&G&Key）・ことぶき光(Key)・秋元一秀(Com)・高橋“ボブ”敏彦(ザ・グルーヴアース/B)・友田真吾(Dr)の5人。

**7月25日** 平沢進、ザ・グルーヴアースのメジャー・デビュー・アルバム『マキシマム・キス』をプロデュース。

**7月29日** めざめの里でライブ。

**9月1日** 平沢進、ポリドールへ移籍して1stソロ・アルバム『時空の水』がリリース。

**9月3日** 第2回“時空の水”ツアーがスタート。東京、博多、広島、大阪、名古屋を回る。

**9月8日** 品川・寺田F号倉庫でソフト・バレエと共演。

**9月28日** インクスティック芝浦ファクトリーで橋本一子と共演。橋本一子とはギター+ピアノでお互いの曲を1曲ずつ共演。

**10月1日** マネージメント・オフィス“アイスリー・プロモーション”に所属する。オフィシャル・ファン・クラブ“HIRASAWA BYPASS”設立。

**11月5日** 平沢進、日本大学芸術学部大講堂にてコンサート“across the forewaters”が開催。バンド・メンバーは前同。

**12月16日** 平沢進が収録曲の半分を編曲&プロデュースした戸川純のミニ・アルバム『昭和享年』がリリース。

## 1990

**1月9日** 平沢進、ことぶき光、秋元一秀が参加した戸川純の“昭和享年ツアー”スタート。大阪ミューズホール、名古屋クアトロ、渋谷クラブ・クアトロほかにてライブ。

**1月17日** 平沢進、2ndソロ・アルバム『サイエンスの幽霊』3か月間にも及ぶレコーディング開始。

**5月7日** 渋谷クアトロにて、平沢進のCGレーベル“フォトン”のイヴェント“ライブ・フォトン”が開催。メンバーは平沢進(Vo&G)・ことぶき光(Key&Cho)・小西健司(Key&Cho)・秋元一秀(Com)・名倉丈雄(Com)の5人。続いて5/19に大阪・国際交流センターで行われた“ライブ・フォトン”では戸川純と共演。

**5月25日** 平沢進、2ndソロ・アルバム『サイエンスの幽霊』とシングル「世界タービン」がリリース。

**7月1日** 平沢進、サントラ・アルバム『ADポリス』に「テクノの娘」を提供。

**7月4日** 平沢進“世界タービン・ツアー”がスタート。東名阪を回る。バンド・メンバーは、ベースがヒア・イズ・エデンの秋山勝彦にチェンジ。どくとる梅津（和時/Sax）がゲスト参加。なお、これに先立ち平沢進は梅津和時のアルバム『キネマ』にヴォーカルで参加している。7/11の渋谷公会堂では当初ゲストに予定されていた戸川純が病欠。

**7月29日** 平沢進、めざめの里でライブ。

**9月21日** 平沢進、渋谷公会堂のライブ・ビデオ『エラー』がリリース。

**9月23日** 日比谷野外音楽堂にて、平沢進プロデュースによるイヴェント“エラー・フォース”が開催。構成は、ヒカシュー、ヒア・イズ・エデン、P-MODEL、戸川純、平沢進ソロ。このP-MODELは「1回限りの、あくまでシャレ」として結成されたもの。メンバーは、ケラ(Vo)・平沢進(Vo&G)・秋山(B)・ことぶき光(Key)・田井中貞利(Dr)・荒木康弘(Dr)の6人。リード・ヴォーカルはケラと平沢が、ドラムスは田井中と荒木が、曲によって担当を変えてプレイした。平沢ソロのバンド・メンバーは前同。戸川純のバンドには、平沢、ことぶき、秋元のほか、ザ・グルーヴアースのリズム隊である高橋“ボブ”敏彦と藤井ヤスチカ（のちにP-MODELに加入）が参加した。

**10月21日** 平沢進が編曲&プロデュースした戸川純のシングル『バージンプルース/吹けば飛ぶよな男だが』がリリース。

**10月25日** 平沢進、渋谷公会堂+ライブ・フォトン（大阪）のライブ・アルバム『Error CD』がリリース。

**11月10日** クリスマス向けのオムニバス・アルバム『ホワイト・アルバム'90』がリリース。平沢進は島崎和歌子をヴォーカルに迎えた「アフリカのクリスマス」を作編曲・プロデュース。アルバムのアンケートに答えると“参加アーティストのメッセージ集入りニューイヤーズ・カード”が貰え、平沢進のメッセージは「アフリカのお正月 以上!」だった。

**12月2日** “世界タービン・ツアー Vol.2”として新宿シアター・アプルでコンサート。東名阪を回る。前同のメンバーに加え、戸川純がゲスト参加。

**12月** 平沢進が参加した横川理彦のアルバム『TWO OF US』がリリース。

## 1991

**3月1日** 平沢進がサウンド・トラックを担当したOAV（オリジナル・アニメーション・ビデオ）『デトネイター・オーガン』の製作発表会見が半蔵門ダイヤモンド・ホテルで開催。

**4月1日** ポリドールが平沢進機関紙『役立つ宇宙 vol.1』発行。

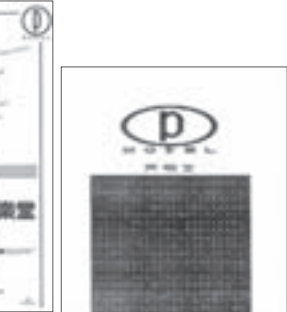
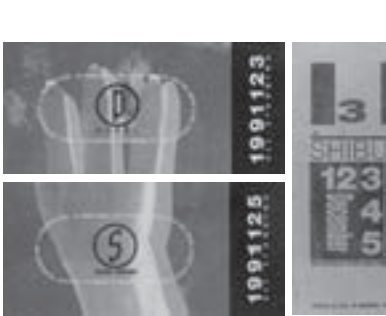
**5月25日** 平沢進ソロ3部作の完結編として3rdソロ・アルバム『ヴァーチャラル・ラビット』がリリース。

**6月4日** 「魂のふる里」香港バージョン（タイトルは「童年夢現」）が収録されたダニー・サマー（夏 詔聲）の『ASID RAIN（酸性雨）』がTIME RECORD（時代鳴片公司）からリリース。

**6月7日** 平沢進が参加したヤブズのアルバム『ダイヤルYを廻せ!』がリリース。

**6月10日** ポリドールより平沢進機関紙『役立つ宇宙 vol.2』発行。

**6月21日** 平沢進の“ヴァーチャラル・ラビット・ツアー”がスタート。東名阪を回る。バンド・メンバーは、ベースに高橋ボブが復帰、キーボードが秋元一秀から砂原



良徳（のちに電気グルーヴへ加入）にチェンジ。ゲストはヴァイオリンに本地陽子と横川理彦、コーラスに戸川純、秋山勝彦、グルーヴアースの藤井一彦、藤井ヤスチカ。

**6月25日** 平沢進、シングル『バンディリア旅行団』がリリース。平沢進プロデュースによるヒア・イズ・エデンのアルバム『夜になっても遊びつづける』がリリース。メイキング・ビデオ『デトネイター・オーガン』がリリース。

**7月5日** 平沢進、ヤブズのツアーにギタリストとして参加。渋谷公会堂ほかで公演。

**8月3日** 『デトネイター・オーガン』のイヴェントが東京、大阪で開催。

**8月25日** サントラ・アルバム『デトネイター・オーガン1』がリリース。徳間ジャパンから『Perspectivell』がCDとして再発。

**9月23日** 平沢進プロデュースのイヴェント“エラー・オブ・ユニヴァース”が開催。本格的にP-MODELが“解決”する“声明文”が配られる。出演はP-MODEL、ヤブズ、ロング・バケーション、4-D、ヒア・イズ・エデン。この日をもって“解決”されたP-MODELのメンバーは、平沢進(Vo&G)・秋山勝彦(Syn&Vo)・ことぶき光(Syn&Vo)・藤井ヤスチカ(Dr)の4人。新曲はなかったが、凍結前のナンバーをシークエンス・サウンドによる全く新しいアレンジでプレイ。

**9月30日** 新宿・日清パワーステーションで行われたTVKのイヴェントで、ソフト・バレエのライブに平沢進がゲスト出演。平沢の「スケルトン・コースト公園」「嵐の海」など、お互いの曲を演奏。

**10月16日** 平沢進が参加したヤブズのライブ・ビデオ『ヤブズ・テ・ラ・クルスの犯罪的人生』がリリース。

**10月25日** 平沢進のサントラ・アルバム『デトネイター・オーガン2』がリリース。

**12月3日** P-MODELのマネージメント・オフィスであるアイスリー・プロモーションのイヴェント“13DAYS”が、渋谷オンエアで3日間にもわたり開催。3日=P-MODEL、4日=ヤブズ、5日=平沢進ソロ。P-MODELはアンコールで新曲『SPEED TUBE』『2D OR NOT 2D』を披露。平沢進ソロのバンド・メンバーは、キーボードが砂原から藤木弘史にチェンジ。ゲストに戸川純。

## 1992

**1月25日** ワーナー・バイオニアから『IN A MODEL ROOM』『ランドセル』『ポプリ』がCDとして再発。

**2月21日** アルファ・レコードから『カルカドル』『ワンパターン』が再発。

**2月26日** 解決P-MODEL初の、8thのアルバム『P-MODEL』がリリース。

**3月10日** “P-MODEL TOUR'92”がスタート。新大阪メルパルクホール、渋谷公会堂で公演。ツアー・パンフレット販売。時報をリミックスしたオープニングSE、平沢進が制作したCGの上映など、演出にも凝る。

**3月25日** 平沢進のサントラ・アルバム『デトネイター・オーガン3』がリリース。

**4月10日** 平沢進、シングル『魂のふる里』がリリース。サントリー“サントリーオールド お帰らない篇”のCFソングとしてオンエア。西荻窪・アケタの店にて、梅津和時の“続々・大仕事”に平沢進、小西健司とともに参加。

**4月29日** 平沢進が1年間にもわたり阿寒まで行き取材、サウンド・トラックを担当したドキュメンタリ番組『カムイ・ミンタラ』がテレビ朝日系でオンエア。

**5月2日** 平沢進、ベスト・アルバム『魂のふる里』がリリース。

**5月11日** P-MODEL“TOUR ON GRID”がスタート。東名阪のクラブ・クアトロ（東京2日、名古屋1日、大阪2日）および東京・インクスティック鈴江ファクトリーでライブ……という予定だったが、大阪の2日目はマシン・トラブル発生。演奏中止となった。

**6月27日** 新宿・日清パワーステーションにてイヴェント“サタデイ・ナイトR&Rショウ”に“P-MODEL・LO-RES”として参加。藤井ヤスチカはザ・グルーヴアースのライブのため不在で、変則的な3人編成でプレイ。平沢進は金タルボを床に叩きつけ破壊。金タルボ全治3か月の重傷。

**7月14日** 心斎橋クラブ・クアトロで演奏中止になった5月のライブの振替公演。

**9月2日** P-MODELのヒストリー・ビデオ『BITMAP 1979-1992』がリリース。

**9月13日** 渋谷ディスク・ユニオンのホール(クラフトワークス)にてビデオ発売記念イヴェント開催。平沢進も出演。

**9月23日** 渋谷公会堂にて、平沢進の完全ソロ・コンサート“Hi-Res”開催。映像とサウンドはすべてコンピュータでコントロール。サンプラーを改造した自作の楽器“チューブラー・ヘルツ”も登場。

**10月1日** 山中湖のスタジオでニュー・アルバムのレコーディング開始。

**10月20日** ポリドールより平沢進機関紙『役立つ宇宙 vol.3』発行。

**10月25日** 日比谷野外音楽堂にて、イヴェント“プラネット・エラー”が開催。出演はヤブズ、小西健司、デイト・オブ・パース、P-MODEL。アナログ・シンセと自作マシンの山に囲まれた小西健司は、のちのP-MODEL参加時のパフォーマンスにつながる異様なライブを展開。

**10月28日** 平沢進が参加したヤブズのアルバム『Dadada ism』がリリース。

**10月31日** 11/15までアムラックス・ホールにて『カムイ・ミンタラ』の上映イヴェント開催。

**11月3日** 名古屋セントラルパークにてイヴェント“’92 NAGOYA CHAMPS ELYSEES FETE”に参加、演奏。

**12月7日** P-MODEL“能率の予感”と題してライブ。12/7・8渋谷クラブ・クアトロ、12/11大阪心斎橋クアトロ。12/8のアンコールでは、珍しく秋山勝彦がエレキ・ベースで「列車」をプレイ。

**12月29日** 渋谷オンエアにて、イヴェント“13DAYS'92”が12/31まで開催。大晦日は平沢ソロ。バンド・メンバーは、平沢進、ことぶき光、高橋“ボブ”敏彦、そしてのちにP-MODELのドラマーとなる上領ひの4人。

## 1993

**1月25日** 平沢進、小説(作・柿沼秀樹)のイメージ・アルバム『グローリー戦記』がリリース。ドキュメンタリ番組『カムイ・ミンタラ』がVHSとLDでパッケージ・ソ

